

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 新居和嘉 氏

本会名誉会員。国立研究開発法人物質・材料研究機構名誉顧問、科学技術庁金属材料技術研究所（現物質・材料研究機構）元所長、元住友金属工業株式会社顧問、元アジア工科大学教授 公益社団法人日本表面科学会（現公益社団法人日本表面真空学会）元会長 正四位 新居和嘉氏は、令和2年5月20日、逝去されました。享年87歳。

氏の逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和7年8月に大分県中津市に生まれ、昭和32年3月東京大学工学部冶金学科を卒業後、同年4月科学技術庁金属材料技術研究所に入所し、以来金属材料について幅広く研究を行い、この研究成果により、昭和41年5月東京大学より工学博士の学位を授与されました。その後、主に金属材料の表面科学に関する研究に従事し、金属表面には内部と組成の異なる表面化合物層が存在することを見だし、この成果に対して昭和55年社団法人日本金属学会より論文賞が授与されました。新たに金属の高温腐食に関する研究を開始し、火力発電機器等に生じる重要な問題である鉄鋼材料の高温酸化のメカニズムの解明、さらにはそれを防ぐためのセラミックコーティング技術の開発などに優れた成果を上げ、我が国における金属材料の腐食防食研究のリーダーとして幅広く活躍しました。これらの研究に対し、昭和58年科学技術庁長官表彰（業績表彰）を受け、昭和60年には本会西山記念賞を受賞し、平成元年には社団法人日本金属学会より谷川・ハリス賞、平成6年には本会澤村論文賞を、平成11年には本会西山賞を、平成17年には本会製鉄功労賞を受賞しました。さらに、平成19年本会名誉会員に推挙されました。この間に、数多くの卓越した発明がなされ、昭和61年には、表面改質ステンレス鋼「高真空容器用材料」が科学技術庁注目発明に選定され、さらに、ステンレス鋼とセラミックス焼結体の直接固相接合技術の「金属またはアルミナの複合剤の製造法」が平成元年に注目発明に選定されました。また、昭和59年には東京大学工学部講師、昭和61年には九州大学大学院総合理工学研究科講師、昭和63年には東京工業大学工学部講師として、学生の教育指導を行い、数多くの優秀な研究者や技術者を世に送り出しました。

昭和62年には金属材料技術研究所科学研究官、引き続き平成元年には所長に就任し平成7年11月に退官するまでの間、研究所の運営、発展に鋭意邁進し、研究所の活性化、国際化を推進しました。さらに、本会評議員、社団法人腐食防食協会理事、同関東支部長、社団法人日本材料科学会理事、社団法人日本金属学会理事、公益社団法人日本表面科学会会長として、我が国の科学技術の社会的振興に大いに貢献しました。このような多大な功績により平成14年には勲二等瑞宝章に叙勲されました。

氏が金属材料技術、特に鉄鋼材料の表面界面の研究を推し進め本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年9月

日本鉄鋼協会 会長 小野山 修平